

平成22年度 落葉果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績
検討会は、平成23年1月31日(月)に第一ホテル両国にお
いて開催された。

この検討会には、試験場関係者 35 名、委託関係者 16
名ほか、計 60 名の参集を得て、除草剤 2 薬剤 (6 点)、生

育調節剤 4 薬剤 (62 点)、展着剤 1 薬剤 (2 点) について、
試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表
に示す通りである。

平成22年度 落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 〈〉は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. SB-211 フロアブル 既知化合物A:20% 既知化合物B:2% 〔エス・ティ・イー・エス・パティファ ク〕	果樹 全般	作用性 新規	福岡 果樹苗木 (1)	ねらい 一年生雑草・多年生雑草・スギナ 対象 雑草 一年生/株 全般 一年生/葉 全般 多年生/株 全般 多年生/葉 全般 その他 スギナ 設計 薬量 〈水量〉 /10a 茎葉処理 雑草生育期(30cm以下) 500mL 750mL 1000mL <100L> 対) ラクトアップ マックスロート 雑草生育期(30cm以下) 500mL <100L>	殺草スペクトラム、薬害 の確認	継	継) ・効果、薬害の確認
2. SB-212 フロアブル 既知化合物A:20% 既知化合物B:3% 〔エス・ティ・イー・エス・パティファ ク〕	果樹 全般	作用性 新規	秋田果試 石川 (2)	ねらい 一年生雑草・多年生雑草・スギナ 対象 雑草 一年生/株 全般 一年生/葉 全般 多年生/株 全般 多年生/葉 全般 その他 スギナ 設計 薬量 〈水量〉 /10a 茎葉処理 雑草生育期(30cm以下) (春期及び夏期) 500mL 750mL 1000mL <100L> 対) ラクトアップ マックスロート 雑草生育期(30cm以下) 500mL <100L>	刈取り代用	継	継) ・効果、薬害の確認
2. SB-212 フロアブル 既知化合物A:20% 既知化合物B:3% 〔エス・ティ・イー・エス・パティファ ク〕	果樹 全般	作用性 新規	福岡 果樹苗木 (1)	ねらい 一年生雑草・多年生雑草・スギナ 対象 雑草 一年生/株 全般 一年生/葉 全般 多年生/株 全般 多年生/葉 全般 その他 スギナ 設計 薬量 〈水量〉 /10a 茎葉処理 雑草生育期(30cm以下) 500mL 750mL 1000mL <100L> 対) ラクトアップ マックスロート 雑草生育期(30cm以下) 500mL <100L>	殺草スペクトラム、薬害 の確認	継	継) ・効果、薬害の確認
2. SB-212 フロアブル 既知化合物A:20% 既知化合物B:3% 〔エス・ティ・イー・エス・パティファ ク〕	果樹 全般	作用性 新規	秋田果試 石川 (2)	ねらい 一年生雑草・多年生雑草・スギナ 対象 雑草 一年生/株 全般 一年生/葉 全般 多年生/株 全般 多年生/葉 全般 その他 スギナ 設計 薬量 〈水量〉 /10a 茎葉処理 雑草生育期(30cm以下) (春期及び夏期) 500mL 750mL 1000mL <100L> 対) ラクトアップ マックスロート 雑草生育期(30cm以下) 500mL <100L>	刈取り代用	継	継) ・効果、薬害の確認

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 【委託者】	作物名	試験の 種・類 新・継 の 別	試験担当場所 ＜は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. AF-3 くん蒸成型 1-メチルシクロフ'ロハ' シ:0.628% [7.85mg a.i./錠(1.25g)] [*三井物産, Agrofresh Inc.]	ナ (あき づき)	適用性 新規	栃木 佐賀 果樹試 (2)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 1000ppb (1錠/3.5m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で12時間程度密閉状 態を保持する	実 ・ 継	実) [日本ナ(幸水、豊水): 収穫果 実の貯蔵性向上] ・収穫直後(24時間以内) ・1000ppb(1錠/3.5m ³) ・専用の溶液がトに入れて発生す る気体に密閉条件で12時間暴 露 継) ・効果、薬害の確認 (あきづき、新高、二十世紀)
	ナ (幸水)	適用性 継続	(独) 果樹研 埼玉 園研 長野 南信 福岡 佐賀 果樹試 (5)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 1000ppb (1錠/3.5m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で12時間程度密閉状 態を保持する		
	ナ (新高)	適用性 新規	(独) 果樹研 栃木 (2)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 1000ppb (1錠/3.5m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で12時間程度密閉状 態を保持する		
	ナ (二十 世紀)	適用性 新規	長野 南信 鳥取 園試 (2)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 1000ppb (1錠/3.5m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で12時間程度密閉状 態を保持する		
	ナ (豊水)	適用性 継続	(独) 果樹研 埼玉 園研 (2)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 1000ppb (1錠/3.5m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で12時間程度密閉状 態を保持する		
	ナ (西条)	適用性 新規	鳥取 河原 (1)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 500ppb (1錠/7m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で24時間程度密閉状 態を保持する	継	継) ・効果、薬害の確認 (富有、前川次郎、西条、早秋、中 谷早生、刀根早生、平核無)
	ナ (早秋)	適用性 新規	岐阜 福岡 (2)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 500ppb (1錠/7m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で24時間程度密閉状 態を保持する		
	ナ (中谷 早生)	適用性 新規	和歌山かきもも研 (1)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 500ppb (1錠/7m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で24時間程度密閉状 態を保持する		
	ナ (刀根 早生)	適用性 新規	新潟 園研 和歌山かきもも研 (2)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 500ppb (1錠/7m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で24時間程度密閉状 態を保持する		
	ナ (平核 無)	適用性 新規	山形 庄内 新潟 園研 和歌山かきもも研 鳥取大学 (4)	ねらい 貯蔵性向上 密閉容器内で暴露処理 収穫直後(24時間以内) 500ppb (1錠/7m3)	・収穫後くん蒸処理 ・薬剤処理は常温下 で24時間程度密閉状 態を保持する		
2. CX-10 液 シガミド:10% [日本カネパ工業]	ナ (自主)	適用性 新規	愛知(施設) 福岡 豊前 (露地) (2)	ねらい 休眠打破による発芽促進 立木全面散布 休眠期(12月を目安) 10倍希釈 <十分量> 15倍希釈 <十分量> 立木全面散布 休眠期(1月を目安) 10倍希釈 <十分量> 15倍希釈 <十分量>	・発芽時期、発芽数 (発芽率)、最大発芽 率までの到達期間、 開花時期、開花数(開 花率)、満開までの到 達期間、結果開始時 期、着果率、収穫時期 の調査を希望	継	継) ・効果、薬害の確認
	ナ (H21)	適用性 継続	山梨果試 和歌山かきもも研 岡山農試 香川農試府中 (4)	ねらい 休眠打破による発芽促進 立木全面散布 休眠期(12月を目安) 15倍希釈 <十分量> 20倍希釈 <十分量> 立木全面散布 休眠期(1月を目安) 15倍希釈 <十分量> 20倍希釈 <十分量>	・発芽時期、発芽数 (発芽率)、最大発芽 率までの到達期間、 開花時期、開花数(開 花率)、満開までの到 達期間、結果開始時 期、着果率、収穫時期 の調査を希望		実) [ナ; 休眠打破による発芽促 進] ・休眠期 ・15~20倍(十分量) ・散布 注) ・花芽が枯死する薬害を生じる事 がある

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
ジベレリン 水溶 つづき	ブドウ ((ハニー ビーツ) 有核栽培)	適用性 新規 (自主)	石川 砂丘地 宮崎 (2)	ねらい 果粒肥大促進 設計 薬量 ＜水量＞ /10a 果房浸漬 満開10日後 25ppm 満開20日後 25ppm 対) 無処理区	・着粒密度、着粒数、 房重、一果粒重、糖 度、酸度を調査する	継)	・効果、薬害の確認
酢 (甘秋)	適用性 継続	奈良 果樹	(1)	ねらい 落果防止 幼果及びへたに散布 満開10日後 50ppm 100ppm 200ppm 対) 自然受粉区 参) 花粉遮断区	・低薬量への拡大 ・摘果前の着果率を 調査する ・必要に応じて無受 粉区(袋かけ)を設定 し単為結果率を調査 する	実	実) [酢;落果防止] ・満開10日後 ・50～200ppm(十分量) ・幼果およびへたに散布 ・効果の確認された品種; 富有、甘秋、新秋、早秋、太秋
酢 (新秋)	適用性 継続	岐阜 奈良 果樹	(2)	ねらい 落果防止 幼果及びへたに散布 満開10日後 50ppm 100ppm 対) 自然受粉区 参) 花粉遮断区	・低薬量への拡大 ・摘果前の着果率を 調査する ・必要に応じて無受 粉区(袋かけ)を設定 し単為結果率を調査 する		
酢 (太秋)	適用性 継続	岐阜 奈良 果樹	(3)	ねらい 落果防止 幼果及びへたに散布 満開10日後 50ppm 100ppm 対) 自然受粉区 参) 花粉遮断区	・低薬量への拡大 ・摘果前の着果率を 調査する ・必要に応じて無受 粉区(袋かけ)を設定 し単為結果率を調査 する		
スモモ (貴陽)	適用性 新規	島根 (自主) 福岡 佐賀 果樹試 熊本 果樹研 (自主;H21参考) 山梨果試 (自主;参考) (2)	ねらい 着果安定 設計 薬量 ＜水量＞ /10a 満開期果そう散布→果実散布 満開期→満開20日～25日後 50ppm→50ppm <十分量> 100ppm→100ppm <十分量> 満開期果そう散布→果実散布 (→摘果) 満開期→満開20日～25日後 50ppm→50ppm <十分量> 100ppm→100ppm <十分量> 対) 人工授粉区	・最終結果確認後の 着果率(着果数/処理 花数)、着色、果実重、 果肉硬度、果径、糖 度、酸度を調査する	継	継)	・効果、薬害の確認

C. 展着剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	試験された内容
1. マリノ 水溶液 ポリフェノール・リコゲル エーザ: 27.0% [日本農薬]	ブドウ (巨峰)	適用性 新規	栃木 山梨果試 (2)	ねらい 効果安定性、薬害確認 設計 薬量 (水量) /10a 立木全面または枝別散布 新梢展開葉7～ 11枚時 0mL/10L(散布液) <十分量> (無加用区) 0.5mL/10L(散布液) <十分量> 2.0mL/10L(散布液) <十分量> 4.0mL/10L(散布液) <十分量> (併し薬害試験区)	・フラスコ液剤500倍液 (散布液量100～ 150L/10a)への加用 ・着粒増加・新梢伸 長抑制	一	[ブドウ(巨峰): 着粒増加、新梢伸 長抑制] ・新梢展開葉7～11枚時 ・0.5～2.0mL/散布液10L (フラスコ液500ppm<100～150L> /10aに加用) ・立木全面または枝別散布